

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果 東山開晴館

(6年生)教科に関する調査の結果

実施日:令和7年4月17日

実施教科:教科に関する調査問題(国語科・算数科・理科)

対象:6年生児童



国語科より

- ・情報を関連づける力や話す・聞く力が育っています。
- ・文章の中で漢字を正しく使うことに課題があります。

強み

国語科においては、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」という設問で京都府平均・全国平均と比べて高い正答率を示しています。このことから、6年生児童は情報を関連づけて、適切に表現する力が育っているといえます。本校6年生が日々のあらゆる授業の中で、情報を整理して分析をしていることの成果であると考えられます。また、本校で大切にしている「発信力」に関わった「話すこと・聞くこと」の力が問われる設問においても、京都府平均・全国平均と比べて非常に高い正答率を示していました。

課題

一方、「時間の経過による言葉の変化や世代によることばの違いに気づくかどうか」をみる設問で京都府平均・全国平均と比べて低い正答率でした。これは「我が国の言語文化に関する事項」とよばれる部分です。日常生活の中で世代によって様々な言葉の違いがあることに気づく経験をしていても、知識として蓄積して活用することに課題があるといえます。

今後について

強みである「情報の活用」や「話すこと・聞くこと」については授業の中で継続して取り組んでまいります。課題である「我が国の言語文化に関する事項」については、学校においてもご家庭においても、様々な世代でたくさん会話をする中で、児童自らが興味深いと感じられることではないかと考えます。時には立ち止まって、共に言葉の意味を調べるなどすると、児童の中でより鮮明な記憶となり、知識として蓄えられると考えています。保護者の皆様には児童と共に言葉を楽しみながら会話をしていただけましたら幸いです。

算数科より

- ・伴って変わる二つの数量の関係を捉えられます。
- ・図形の知識と技能に課題があります。

強み

算数科においては「日常の事象について伴って変わる二つの数量の関係に着目して考察すること」の設問が全国平均と比べて高い正答率でした。この問題では必要な数量を見いだして知りたい数量の大きさを求めたり、はかりの目盛りを読んだりする力が問われます。本校の6年生は、日常生活から問題を見いだし、その変化と関係を解決する力が育っているといえます。

課題

一方、「多角形の図形を構成する要素に着目し、図形を考察すること」の設問については、京都府平均・全国平均と比べて低い正答率でした。図形のかき方についての技能や台形や角の大きさの知識等が十分に定着していないことがわかります。

今後について

強みである「伴って変わる二つの数量の変化と関係」については、二次関数につながる部分ですので、後期課程の教員とも共有してすすめて参ります。課題である「図形」については、一旦授業で単元が終わっても、家庭学習等で復習を継続できるようにして、知識や技能の定着を図っていくことが大切であると考えています。また、図形は日常生活の中でも度々見つけることができます。学習内容の定着には日々の刺激も有効ですので、ご家庭でも図形の名前やその定義などを折りに触れて話題にしていただけますと幸いです。

理 科 よ り

- ・「生命」を柱とする領域が強みです。
- ・「エネルギー」を柱とする領域が弱みです。

強み

理科においては「生命」を柱とする領域の設問が京都府平均・全国平均と比べて高い正答率でした。この問題ではヘチマの花のつくりや顕微鏡で観察する時の知識や発芽の条件を判断する力が問われます。日々の授業で実際に観察したり実験用具を適切に使ったりする機会を十分に確保している成果であるといえます。

課題

一方、「エネルギー」を柱とする領域の設問については、京都府平均・全国平均と比べて低い正答率でした。これは身の回りの金属について電気を通すものや磁石に引き付けられるものがあることの知識や電気の回路のつくり方を表現する力が問われています。本校児童は金属や電気の回路の知識・理解に課題があることがわかります。

今後について

授業においては、引き続き実物の観察や実験をする経験を積み重ねていく予定です。課題である「エネルギー」を柱とする領域については、身の回りの金属がどのような性質があるのかについて、電気についての学習や磁石についての学習での知識を関連づけられるように授業の中で問い合わせを工夫していきます。また授業の中で習得したことを日常生活で活用することができるようなエピソードに児童が出会えるようにしていきたいと考えています。

保護者のみなさまへのお願い～質問紙より～

子ども達の生活を日々支えていただきましてありがとうございます。就寝起床時刻や朝食の有無など基本的な生活習慣については、全国平均・京都府平均よりも高い数値でした。基本的な生活習慣が今後も整っていきますように引き続きお力添えをお願いします。

平日の家庭学習の時間について、毎日1時間以上学習している児童の割合は約5割で全国平均・京都府平均を若干下回っていました。一方土曜日や日曜日の家庭学習の時間については全国平均・京都府平均とほぼ同じでした。後期課程に向けて土曜日や日曜日に自ら学習をする習慣が身に付いていることはとても大切です。また、PC やタブレットを使っての家庭学習については全国平均・京都府平均を上回っていました。これからはレポートや課題などは ICT 機器を用いて家庭で作成する機会も増えると考えられます。

ご家庭では、タブレットを開いている時には、学習をしているのか学習以外のことをしているのかがわかりにくいこともあるかと思います。学校では情報モラルについての時間で ICT 機器の良い面も懸念される面も指導する機会があります。ご家庭でも、お子様がタブレットに向かっている時には、何をしているのかをご確認いただき、学習に関わることをしている時には励ましてください。学校と保護者の皆様と共に子ども達が適切に ICT 機器を学習に効果的に活用できるようにご協力ををお願いいたします。